

M&C 2005 Avignon International Conference 参加報告

期日 : 平成 17 年 9 月 11 日 ~ 9 月 17 日

出張者 : 原子核工学専攻博士後期課程 1 年 若菜 俊一

出張先 : アヴィニョン、フランス

2005 年 9 月 12 日から 15 日までの 4 日間にわたり、フランスのアヴィニョン、Palais des Papes において M&C 2005 International Conference が開催された。M&C International Conference は American Nuclear Society (ANS) の Mathematics and Computation 部門における会議で、Commissariat à l'Énergie Atomique (CEA) 及び French Nuclear Energy Society (SFEN) 主催のもと、その他多数組織からの後援により行われた。この会議は 2 年に一度開かれる国際会議で、高性能コンピューティング、原子炉物理、安全性、そして生物学的な応用を含む原子力概念における数値シミュレーション、物理的モデリングの分野での最新の調査報告を発表するものであった。1987 年にも本会議はフランスで行われたが、その際の開催地はパリで、今回はフランスの南部に位置するアヴィニョンであった。アヴィニョンは二つの原子力施設 Cadarache と Marcoule が近いいため Cadarache への技術訪問も本会議のプログラムの一つとして加えられていた。発表数は口頭とポスターを含め 300 本以上という非常に大きな会議となった。

1 日目の午前は Plenary Session としてただ一つの会議室で Richard Sanchez 氏座長のもと会議が行われた。この会議室は非常に独特な創りの部屋(コンクラーベ: 教皇選挙の秘密会議室)で、雑壇型に並べられた席が通路を真ん中に向かい合って並んでいて、どちらの席に座ってもスクリーンが見えやすいように両側座席の上部にスライドが映写され



写真(1) Plenary Session が行われた会議室

ていた。そして午後は 4 つの会議室に分かれてセッションごとの会議が行われた。私もこの日に発表を行った。発表形式はポスターセッションであったが、最初は口頭発表が行われている会議室にて 5 分間ほど簡単に研究内容を説明し、その後別の会場に移動して通常のポスターセッションを行った。今回は「高温ガス炉における二重非均質問題の解析」というテーマで発表を行ったが、会議に参加されている人達はみな原子炉物理や計算物理のスペシャリストが集まっているだけあり、鋭い質問や的確なアドバイスをもらうことができた。

2日目以降も同様に4つの会議室を用いてセッションが行われていたので、なるべく多くのことを吸収しようと様々なセッションを聴講した。会議は非常に多くのセッションに別れていて、私自身もどのセッションを聴講したらいいのか迷ってしまったほどである。私は決定論的輸送計算法やモンテカルロ法シミュレーション、そして私も発表者として参加した高温ガ



写真(2) 発表を行った会議室

ス炉の物理と手法のセッションを聴講したが、人気のあるセッションは非常にたくさんの方が集まり、席も足りなくなるほどで、立ち見でセッションの最後まで発表を聴いている人達も少なくなかった。コンピューター技術の向上に伴い複雑な炉心の解析も可能になったため、複雑であるが非常に精度の高い計算手法が数多く発表されていた。人気のあるセッションは当然質疑応答も盛り上がり、周りの研究者としての意識の高さを感じ、私もそうなりたいと感じさせられた。

私にとって英語を用いて発表する機会は修士課程時に日本で行われた COE-INES 国際シンポジウム、INES-1「世界の持続的発展を支える革新的原子力」でのポスターセッションから2回目となったが、英語という共通言語を用いて世界の研究者達と同じ分野の研究内容で議論が行える素晴らしさを実感することができた。特に今回の場合、日本人参加者は数名で周りほとんど海外の人だったので必然的に英語でコミュニケーションをとらなければならない、とよい意味での緊張感を感じる事ができた。また、私にとって初めての国際会議での発表であり、このような素晴らしい機会を与えてくださった東京工業大学原子炉研 COE-INES プログラムに心より感謝いたします。



写真(3) 筆者の発表の様子



写真(4) ポスターセッションの様子